

特別寄稿 中国・台湾訪問記 再来一杯茶《4》

※空芯菜(くうしんさい)と菜脯蛋(さいぶーたん)

この二品もビールにぴったりだ。空芯菜は水生野菜だそうで、芯が空芯になっていて炒めて食べる。歯ざわりが良くて、大概の日本人が好きな料理だ。野菜なので健康にも良い感じがする。

菜脯蛋は台湾式玉子焼きであるが、玉子焼きの中に切干大根が入っていて噛んだ感触が良い。

これらの料理を着て大声で、「再来一瓶啤酒(ビールをもう一本下さい)！」と言って盛り上がるのである。

※友好と友誼(ゆうぎ)

台湾出張のホテルで台湾雑誌を見ていたら、哈日族(ハーリーズ)の記事があった。その雑誌によると台湾人の哈日(ハーリー)さんが日本に留学後帰国して漫画家となり、日本で触れた文化やファッションをテーマにしたら大ヒットしたとのこと。以来その漫画から、日本のファッション、アニメや音楽などの日本の文化が好きな人達を哈日族と呼ぶようになった。ところがこの哈日族、今や台湾から香港や中国に飛び火して、日本好きの香港人や中国人も哈日族と呼ぶようになった。

香港に出張した時、駅で電車を待っていたら若い女性がひらひらのネグリジュのような服装で、明らかに一般の香港人と違うファッションであった。すると近くに居た人が、「最近の香港の若者は、日本のファッションを直ぐに真似するのだ」と言った。まさに香港人の哈日族だ。

またこの哈日族に影響を受けて、哈台族(ハータイズ)という新語も生まれている。哈台族とは、台湾好きな日本人の意味なのだ。その内に哈中族(ハージョンズ)：中国好きな日本人)という単語も生まれ

るかも知れない。哈日族も哈台族も両国の文化の友好だから好ましい現象と思う。

私達は自然に日台友好や日中友好の言葉を使う。しかしある場面で、友好と同じ意味の別の言葉を聞いたことがある。

高崎のある会社の労働組合では、中国の田舎に小学校の建物を寄贈するための募金活動を長年している。ある時に寄贈先の小学生代表とその父兄を高崎に招いて寄贈式を行った。寄贈式の式典が済んだ後の会食に、中国語が話せるとの誤解で招待されたことがある。中国側に横浜に留学したが、家庭の事情で3か月後に帰国せざるを得なかった女性が通訳してくれた。彼女は3か月で帰国せざるを得なかったのを「非常に悔しかった」と話していた。しかしたった3か月しか日本に滞在していなかったが、彼女の日本語は素晴らしかった。

さて、中国の利発そうな小学生の挨拶が始まった。「美しい緑と空気が美味しく、水清い高崎・・・」の言葉に日本人は、小学生なのに素晴らしい挨拶だと思ったに違いない。しかし私はこのフレーズは聞いたことがある。中国人が他の土地に行った時、挨拶に使う決まり文句なのだ。この挨拶の後に続いたのが、「中国と日本の友誼(ヨーイー)



京劇(台北)

かも知れない。哈日族も哈台族も両国の文化の友好だから好ましい現象と思う。

私達は自然に日台友好や日中友好の言葉を使う。しかしある場面で、友好と同じ意味の別の言葉を聞いたことがある。

高崎のある会社の労働組合では、中国の田舎に小学校の建物を寄贈するための募金活動を長年している。ある時に寄贈先の小学生代表とその父兄を高崎に招いて寄贈式を行った。寄贈式の式典が済んだ後の会食に、中国語が話せるとの誤解で招待されたことがある。中国側に横浜に留学したが、家庭の事情で3か月後に帰国せざるを得なかった女性が通訳してくれた。彼女は3か月で帰国せざるを得なかったのを「非常に悔しかった」と話していた。しかしたった3か月しか日本に滞在していなかったが、彼女の日本語は素晴らしかった。

さて、中国の利発そうな小学生の挨拶が始まった。「美しい緑と空気が美味しく、水清い高崎・・・」の言葉に日本人は、小学生なのに素晴らしい挨拶だと思ったに違いない。しかし私はこのフレーズは聞いたことがある。中国人が他の土地に行った時、挨拶に使う決まり文句なのだ。この挨拶の後に続いたのが、「中国と日本の友誼(ヨーイー)

・・・」を、日本留学経験の彼女はそのままの日本語発音の「友誼(ゆうぎ)」と通訳していた。私は、今の日本人で「友誼」と言われて直ぐにその意味を理解できる人がどれ位いるだろうか?と疑問に思った。友誼は友好と同じ意味で、中国では普通に使われている言葉である。たとえば友誼大樓(友好ビル)や友誼旅行社(友好旅行社)などである。日本では友好の方が一般的なもので、友誼は友好と訳すべきと思った。なおこのパーティで、中国の小学生は「将来日本に留学したい。」と話したのに、「この子供達のため何をすれば良いのだろうか?」と思い強い印象を受けた。

※広東料理

中華料理の中でも、香港地域の広東料理は洗練されていて美味しい。特に飲茶には品を感じる。ある香港出張の時に現地のスタッフから、「今日の夕食は蛇でどうですか?」と言われて腰を引いてしまった。

さてレストランに到着してさっそくビールを飲むが、蛇が気になっていつものように「再来一杯啤酒(ビールをもう一杯ください)」が出ない。料理はまず飲茶が出てきて、そうこうしていると蛇のスープが出てきた。ちょっと一口舐めた。「・・・ん!」香料が効いていて意外にも美味しかった。聞くところによると、蛇料理の旬は冬季だけだそうだ。冬季以外の蛇は低温保存のために高価な料理となるとのこと。南国の香港に四季があったのかと思ったが、緩やかな変化であるが確かに四季があるようだ。

蛇のスープが意外にもすんなり受け入れができたせいか、エンジンがかかってきた。するといつものように「再来一杯紹興酒(紹興酒をもう一杯ください)」などと言い、気持ちよく酔う夜であった。

香港でたまたま日曜日が挟まった出張があった。上長と一緒に出張では行けない香港島の裏側に、バスで小冒険旅行をすることにした。観光地を見歩いたが、昼になり腹が空いたので現地人が行くレストランに入った。もちろん二人とも広東語は話せない。メニューの写真を指差して、チャーハンと他数点を頼んだ。チャーハンは香港の高級レストランで度々食べたことがある。ところがこのレストランのチャーハンは



中国料理を堪能

ちょっと変わっていて、上にアンがかかっていた。味は今まで食べたことがない、本当に素晴らしい美味しくて、高級店は必ずしも美味しいとは限らないと思った。この経験だけで充実した気分となった香港の旅であった。



◆記事

嵯峨 良平 (昭和43年電気科卒)

写真同好会からのお知らせです

メンバー募集中!!

楽しく愉快的な仲間と写真を撮ろう!

Wonderful memories of life

